

ロータリー米山奨学生報告

1999年 12月

提出期限 1999年 12月 25日

提出月日 1999年 12月 12日

米山奨学生番号: A0862 (必ず書いて下さい)

米山奨学生氏名: 曾芳代 国籍: 台湾

世話クラブ 明石北 米山カウンセラー 下村恵造

健康について

健康状況には別に変わりはありません。この冬は花粉が異常にとびちっていると聞いていましたけれども、自分がアレルギーを起さずにいられることに、ほっとしているくらいです。

学業の進捗 神戸 大学 博士後期 課程 2年 在学中
専攻分野 マネジメント・システム 指導教員名 奥村康司

(具体的に本人が記入)

この10月に第2論文が合格(1作)。第2論文は進学試験の最後の関門であって、それが通れば、博士論文が提出できる仕組みになっています。従って、私は今から博士論文を書けるように頑張っております。今取り組んでいる課題は、日本企業、時短施策を、取り入れることです。来年には、日本台湾、西国の企業インタビュー調査が控えております。

<以上>

カウンセラーの所見

・私が見た日本のロータリー活動

ロータリークラブの存在は、私がまだ台湾にいた時にすでに聞いておりました。どういふ趣旨の団体なのかは分からなかったけれども、ロータリーの団体が飾っている町の中心に立っている時計台のことだけが記憶に残りました。

日本に留学に来て、ロータリークラブは留学生の間に複雑な気持ちで語り継がれていることに気が付きました。話題の中心は、米山奨学金です。留学生の間には、ロータリークラブは奨学金と同じ意味合いで語られていました。留学生活の成敗を握るのが奨学金と言っても過言ではないでしょう。それだけに、ロータリークラブの存在は留学生にとって大きなもので、且、複雑です。

米山奨学金のオリエンテーションの中で、奨学金が奨学生と世話クラブの仲を危うくする話を聞きました。奨学金が何を言おうとしているのが分かりました。自分が明石北RCでお世話になって、早くも半年以上が過ぎました。兼て危ういRC嫌いな気持ちも味方にならず過ぎました。しかしながら、何が奨学生と世話クラブの仲を悪化させたのか、分らない感じがします。奨学生の「プライド」が邪魔をしていると思います。

奨学生の「プライド」が悪いと言ふことはできません。ただ、奨学金に、奨学生の心情を分って頂いてもいいと思います。米山奨学金が奨学生にとって、どれだけの大切なものが、奨学生にも、世話クラブにも言わずとも分ることです。だから、奨学生は最初が、悪い目を感じるものです。世話クラブの方が親身になって接してくれるほど、プライドの高い奨学生が傷ついていくのではないでしょう。

私は幸いなことに、「プライド」が高いではないものの、豪華料理を目前に「おいしー?」と尋ねる人にも食べられないという「はい、食べて、マね。」と言われると、大喜びで食べてしまうのです。しかし、人によって、「私は普段でも学費がい、おいしいものを食べているのよ」と思う奨学生もいます。日本の諺「千人千色」のように、奨学生もいろいろあります。

私が見た日本のロータリー活動は、社会奉仕の理想に溢れたものです。毎週、毎週、社会の動向を伝える堅い卓話や耳を傾けロータリアンが大勢にいられます。伊丹クラブの「サテライト・シンポジウム」のような国際交流の場をわざわざ毎年に設け所を設けます。私が見たロータリー活動は、どれも期待と力をいれ込んだものです。これは奨学金に知って置いてもらいたいこと(もしあるなら)理想の溢れた活動が期待していた効果が上げられなかった。私も長く見ます。お手伝いのつもりで、自分の考えを申し上げた次第です。また、今後の活動が期待通り成果が上げられるように、自分自身の聲(きこえ)も込めて、お祈りいたす次第です。奨学金にあっていて、頂きたいことも以上通りです。いろいろ、ありがとうございました。 <以上>

(奨学生は記入しない)

上記本人記載の通り、曾芳代さん(以下、ファンちゃんと言う)は、とてもしっかりしていて頑張り屋さんです。また明石北ロータリークラブにも懐いてくれ、カウンセラーの私にも心を開いて友達のように付き合ってくれる様になりました。

私は米山記念奨学委員会の委員長として、米山記念奨学生にロータリークラブおよび米山記念奨学会について出来る限り理解して貰うには、ファンちゃんと友達になれるかどうかが続くと思ひ、本音で語り合ひながら頑張ってきました。ファンちゃんは頭がいいだけでなく、人の心をとても気遣う事の出来る優しい奨学生ですが、でも最初は、本音を言ったり書いたりすると、お世話になっているロータリークラブに対して申し訳ないのではとか、援助を打ち切られるのではないかと云う様な心配もあった様で少し遠慮するところが見えていました。だから私(お父さんと呼んでくれています)も本音でファンちゃんと付き合っているのだ、ファンちゃんも本音を聞かせてくれる事がロータリークラブに対する本当のお礼になるんですよとアドバイスし続けてきましたら、やっとお父さんの気持ちが通じたのか最近どうとう勇氣を出して本音で語ってくれる様になりました(へへ)これで、お父さんの前期目標も先ずは達成と言ったところで、お父さんなりにホッとしています。後期はファンちゃんが一生懸命勉強をしたり、日本人の友達も一杯くれる様に見守っていると思っています。私の任期はあと半年、クラブのお世話期間は1年半となりましたが、期間に関係なく今後も、この素晴らしい出会いを大切にファンちゃんとは何時までも友達でいたいと、お父さん達は思っております(へへ)~

明石北RC米山記念奨学生カウンセラー 下村恵造 99/12/13